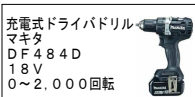
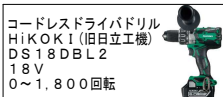


施工方法と施工上の注意

一、施工工具は

- 1、推奨工具の使用が不可欠です。

ドライバードリル(回転専用トルク調整機能付き) 下記は2020.03現在を基にしています。



- 2、インパクトレンチ・インパクトドリルは、鉄下地には所要の穴開け及び締結が出来ません。
⇒ネジ破断・リセス及びビットの破損を招きます。

二、普及品及び高耐力品にはナット可動式とナット固定式があります。

⇒適応下地・適応壁厚(締結下地厚さを含む)で品番を選択します。

- 1、外壁材施工時と同じ状態で下地に締結を行います。
⇒目地又はジョイント部から下地に締結するのが基本です。
- 2、ALCパネル・ECP(押出成形セメント板)等で鉄下地の裏にコンクリートの打設がある場合
⇒締結出来ません。ツイン・3WAYタイプを使用して下さい。
- 3、外壁材の施工状態によっては、外壁材と鉄下地の間に空間(距離)がある場合があります。
⇒適応壁厚には締結下地厚が含まれていますが、施工時の図面で壁材と締結下地の隙間(空間)をプラスして適応壁厚として下さい。

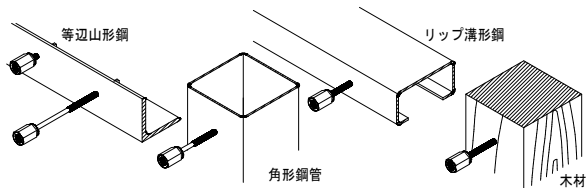
三、外壁材に直接締結するツイン・3WAY・プレコンは、必要な強度を得るため

2本(ツイン)、2本・3本・4本(3WAY)締結用があります。(プレコンを除く)

⇒カタログ記載の適応下地・適応壁厚で品番を選択します。

- 1、ALCパネルの場合は、下穴不要です。
- 2、ECPの場合は、別売りECP専用ドリル(ECPD-H51)で中空部分に下穴を開けます。
⇒不使用の場合は、所要の強度が得られないため受注致しかねます。
- 3、コンクリートの場合は、下穴径×深さ目安の穴開けが必要です。
⇒推奨工具はドライバードリル(回転専用トルク調整機能付き)又はインパクトドライバーです。

■施工例



使用上の注意

GSアシバツナギ AFSタイプ(普及品ナット固定式)

品番	適応最小・最大壁厚 (mm)	下地厚(mm)	最大引張強度 N (kgf)t=mm
AFS-40ロングポイント	・14	鉄最大13.0	6.0t-17,162 (1,750) 12.0t-19,613 (2,000)
NAFS-25 p1.0細目ネジ	・11	鉄1.6~3.2	1.6t- 3,100 (316)
NAFS-50 p1.0細目ネジ	・36		2.3t- 7,100 (724)
NAFS-75 p1.0細目ネジ	22・61		3.2t- 9,600 (978)
NAFS-105 p1.0細目ネジ	32・91		
AFS-25 p1.8粗目ネジ	・11	鉄1.6~3.2	1.6t- 3,099 (316)
AFS-50 p1.8粗目ネジ	・36		2.3t- 4,992 (509)
			3.2t- 6,188 (631)
AFS-75 p1.8粗目ネジ	22・61	鉄2.3~4.5	2.3t- 4,864 (496) 3.2t- 5,943 (606) 4.5t-14,220 (1,450)
AFS-105 p1.8粗目ネジ	32・85	鉄2.3~6.0	2.3t- 4,374 (446) 3.2t- 8,424 (859) 4.5t-13,818 (1,409) 6.0t-18,240 (1,860)
AFS-130 p1.8粗目ネジ	57・110	鉄3.2~7.5	3.2t- 8,071 (823)
AFS-185 p1.8粗目ネジ	112・165		4.5t-13,121 (1,338) 6.0t-17,475 (1,782) 7.5t-19,172 (1,955)
AFW-70 p1.8粗目ネジ	・11	木60以上	50mmねじ込み 6,718 (685) 60mmねじ込み 8,041 (820) 70mmねじ込み 8,189 (835)
AFW-105 p1.8粗目ネジ	・46	木60以上	60mmねじ込み 7,453 (760) 80mmねじ込み 8,140 (830) 100mmねじ込み 10,787 (1,100)
AFW-145 p1.8粗目ネジ	・86	木60以上	60mmねじ込み 7,355 (750) 80mmねじ込み 8,630 (880) 100mmねじ込み 11,278 (1,150)

推力 鉄下地の場合：20Kgf～25Kgf 木下地の場合：10Kgf～20Kgf
但し、工具に過大な推力を加えると、回転にブレーキを掛け穴開け・ネジ立ての能率低下を招きます。

- ①(社)仮設工業会編の足場工事マニュアルに準じて、十分な安全率を考慮して下さい。
- ①許容荷重＝最大引張強度÷安全率(法令の定め・施工現場の環境を考慮し安全率は2.0以上を目安して下さい)
- ①外壁材とアシバツナギのナット部は、過剰な締め付けによるトラブルを防ぐため僅かな隙間を設けて締結して下さい。
- ①機能的には引張強度≠圧縮強度ですが、(社)仮設工業会編の足場工事マニュアル記載の通り、壁当てジャッキの使用は施工案件毎に検討対応が必要です。
- ①鉄下地が厚い場合でネジ加工がスムーズに行えない場合は、回転を下げてトルク調整をして締結して下さい。
- ①付属の専用ビットの四角No.3を必ず使用して下さい。
- ①木下地の場合木質、部位、樹齢、水分含有率、ねじ込み深さにより強度が異なりますので考慮して使用して下さい。
- ①壁つなぎの雄ネジ部に傷や錆び等のままで接続しないで下さい。

■適所に各々には、下穴処理ビスがあります。(プレコンを除く)



普及品 AWS・AFS-76
左 ユニクロ 右 ステンめっき



高耐力品 SM・SF8×78
左 ユニクロ 右 ステンめっき



ツイン ATE-45・ATA-90
左 ステンめっき 右 セラミック

イイファス株式会社/株式会社シグテックファスナー

詳しい情報はこちらから <http://www.iifas.jp> Email:sales@iifas.jp

NO-000200